

New Horizon 第13回 Lessons

Lesson 13-1: 疑問詞⑤

1. What do you do? = あなたは何の仕事をしているのですか。

<例> A: What do you do? B: I'm a teacher.

<A: あなたは何の仕事をしているのですか。 B: 私は教員です>

〔補足説明〕

What do you do? の直訳は「あなたは何をするのですか」となるが、現在形は「習慣」「日常的にすること」を表すことができるため「あなたは(日常的に)何をするのですか = あなたの仕事は何ですか」という意味になる。

2. Which (○○) ~, A or B? = A と B のどちら (の○○) が~ですか。

<例> A: Which do you want to play, soccer or baseball? B: I want to play baseball.

<A: サッカーと野球のどちらをあなたはしたいですか。 B: 私は野球をしたいです>

A: Which language does she speak, English or Japanese? B: She speaks English.

<A: 英語と日本語のどちらを彼女は話すのですか。 B: 彼女は英語を話します>

〔補足説明〕

文脈上、A と B がはっきりしている場合、A と B は、省略することができる。

<例> I see two textbooks. Which is yours?

(私には2冊の教科書が見えます。どちらがあなたののですか)

3. Why don't you ~? = (あなたは) ~しない? / なぜあなたは~しないのですか。

Why don't we ~? = (私たちは) ~しない? / なぜ私たちは~しないのですか。

<例> Why don't we do this now? <なぜ私たちは、今それをしないのですか>

〔補足説明〕

何かを提案をする時によく使われる表現。「提案」の場合、肯定の答えなら Sure / OK / Let's do it / That's a good idea. といった表現が用いられる。

<例> A: Why don't we do it now? B: OK. Let's do it.

(A: なぜ私たちは、今それをしないのですか。 B: OK. やりましょう)

【ポイント！】

Do you know ～?は、個人的に面識がある時に使われる言い方なので注意！

(以前にも説明しましたが)「あなたは大谷翔平選手を知っていますか」という日本語文を Do you know Shohei Ohtani? とすると大谷翔平選手と「面識がある(友だちである)という意味で知っていますか」という意味になりますので注意が必要です。こういう場合は、(主に中3で学ぶ)現在完了形を使って Have you heard of Shohei Ohtani? (大谷翔平を聞いたことがありますか?) という表現が使われますので、覚えておきましょう！

<参考ウェブサイト> [英語イメージリンク](#) [Hapa Eikaiwa](#)

Lesson 13-2: 様々なフレーズ⑫

1. 名詞 + 前置詞 + ～ = ～の名詞

<例> She is an English teacher in Japan. <彼女は日本にいる英語の先生です>

Who is the man in the picture? <写真の男性は誰ですか>

【補足説明】

ここでは、mix は「混ぜたもの / 混合物」という名詞として使われているが、「混ぜる / 混ぜる」という動詞として使うこともできる。

<例> You can mix these two colors. <あなたはこれらの2色を混ぜることができます>

2. someday = いつの日か / いつか / そのうち

<例> I want to go to New York someday. <私はいつかニューヨークに行きたいです>

【補足説明】

someday は副詞。文の最後だけでなく、文の最初にも使うことができる。この際、カンマはなくても可。

<例> Someday, I want to go to New York. <いつの日か、私はニューヨークに行きたいです>

3. at ○○ (お祭り / コンサートなど) = ○○ (お祭り / コンサートなど) に / で

<例> I saw him at the show. <私は、彼をショーで見ました>

【補足説明】

お祭り、コンサート、パーティなど「何かのイベントで」という場合、Can you help me with my homework? は、よく使われる形。直訳は「私を私の宿題の面で 手伝ってくれる?」となる。

4. (That / It) sounds ○○ (形容詞) = (それは) ○○ですね

<例> A: Let's have a party. B: Sounds good. <A:パーティーをしましょう B: 良いですね>

〔補足説明〕

sound は「音」という名詞でよく使われるが、ここでは「音がする」という動詞で使われている。本来であれば主語に That / It などが入るため、sound には、3 単現の s がついている。That / It が省略されない形もよく登場する。

<例> A: Let's have a party. B: That sounds good.
<A:パーティーをしましょう B: それは良いですね>

また、似たような使い方と“(That / It) looks ○○ (形容詞)”という表現もある。これは「○○のように見えます」「○○のようですね」という意味になる。

<例> A: This is my homework. B: Thank you. It looks good.
<A:こちらが私の宿題です。 B: ありがとう。 良さそうですね>

Lesson 13-3: and の用法

and には「単語と単語」だけでなく「句と句」や「文と文」をつなぐこともできますので、それらの使い方を例を見ながら確認していきましょう。

<例 1> He can play tennis and badminton. <彼はテニスとバドミントンができます>

〔解説〕

He can play が tennis と badminton にかかっている。つまり、He can play tennis. と He can play badminton. の 2 つの文章を足した形。

<例 2> He can play tennis, soccer, and badminton.

<彼はテニス、サッカーとバドミントンができます>

〔解説〕

He can play が tennis と soccer と badminton にかかっている。つまり、He can play tennis. と He can play soccer. と He can play badminton. の 3 つの文章を足した形。and の前のカンマは省略可。

<例 3> You can read and buy those books. <あなたは、それらの本を読んでと買うができます>

〔解説〕

You can ~ those books が、read と buy にかかっている。つまり、You can read those books. と You can buy those books. の 2 つの文章を足した形。

<例 4> She can play the piano and speak English. <彼女は、ピアノが弾け、英語が話せます>

【解説】

She can が、play the piano と speak English にかかっている。つまり、She can play the piano. と She can speak English. の2つの文章を足した形。

<例 5> He is American and likes Japanese music. <彼は、アメリカ人で日本の音楽が好きです>

【解説】

He が、is American と likes Japanese music にかかっている。つまり、He is American. と He likes Japanese music. の2つの文章を足した形。

<例 6> I am from Aomori, and he is from Akita. <私は青森出身で、彼は秋田出身です>

【解説】

2つの違う文を and でつなげる形。「文と文」なので、and の前にはカンマが打たれる。

Lesson 13-4: 様々なフレーズ⑬

1. A, B = A である B / A つまり B

<例> She is my sister, Kazumi. <彼女は私の妹のカズミです>

【補足説明】

ここのカンマは、A の補足説明として B を足すときに使われる。場合によっては、A と B を入れ替え、同じような意味の文章を作ることができる。

<例> She is Kazumi, my sister. (彼女はカズミ、私の妹です)

2. next △△ (曜日 / week) = 次の△△ (曜日 / 週) next time = 次回

<例> I want to go to Sapporo next Saturday. <私は、次の土曜日に札幌に行きたいです>

【補足説明】

next △△ / next time は、every △△ / last △△ のように、副詞句となるので、基本的に in / on / at といった前置詞はつかないので注意。

<例> Does he want to buy a new computer next week?

(Does he want to buy a new computer in next week? = ×)

<彼は来週新しいパソコンを買いたいと思っているのですか>

3. **Here you are.** = (何かを差し出して) はい、どうぞ。

<例> A: Here you are. B: Thank you. <A: はい、どうぞ。 B: ありがとう>

〔補足説明〕

Here you are. の代わりに Here you go. といった表現もよく使われる。またレストランに限らず、何かを差し出す時（例えば、ペンを貸す時など）には使われる。

4. **a history of (over) ~ years = ~年の (~年を超える) 歴史**

<例> This house has a history of over 100 years. <この家は 100年を超える歴史を持っています>

〔補足説明〕

ここでは、history は、可算名詞として使われている。また「100年を超える1つの歴史」という意味なので、冠詞は a が使われている。the としてしまうと「100年を超えるその歴史（100年を超える歴史を持つものは、たくさんあるが、その中でも限定されている特定の歴史）」となってしまうため、ここでは使われない。

また、国の歴史（例：日本の歴史）という場合は the history of 国名（例：the history of Japan）となる。この際、主に the が用いられる理由は、その国の歴史は1つしかなく限定されているため。

Lesson 13-5: 所有代名詞

I / you などの代名詞には「主格」「所有格」「目的格」といった格がありました。そして、この格とセットでよく覚えるのが、今回学ぶ「所有代名詞」というものです。この所有代名詞は「○○の(もの)」（例：私の(もの)です）といったように「所有格+名詞」の意味を表します。

主格	所有代名詞 <~の(もの)>	例文
I	mine <私の(もの)>	That bag is mine. <あのカバンは私の(もの)です>
you	yours <あなた(たち)の(もの)>	Is this yours? <これはあなたの(もの)ですか>
we	our <私たちの(もの)>	This bus is not ours. <このバスは私たちの(もの)ではありません>
they	theirs <彼らの(もの)> <彼女らの(もの)>	That car is theirs. <あの車は彼らの(もの)です>
he	his <彼の(もの)>	That car is theirs. <あの車は彼らの(もの)です>

主格	所有代名詞 <～の (もの) >	例文
she	hers <彼女の (もの) >	That car is theirs. <あの車は彼らの (もの) です>
it	*—	—
Tom (代名詞以外)	Tom's <トムの (もの) >	That book is Tom's. <あの本はトムの (もの) です>

*it の所有代名詞に its というものがあるが、使われるのは極めてまれ。